

事業所名

ミオの家 児童デイサービス

支援プログラム(児童発達支援)

作成日

2025 年

3 月

22 日

法人(事業所)理念		子どもたちの生活能力向上のために必要な訓練を行い、社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。また、事業の実施に当たっては、都道府県、関係市町、障害福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。						
支援方針		<ol style="list-style-type: none"> 一人一人の個性やニーズを的確に把握し、主体性を尊重し、成長や学びに繋がる遊びなどを通して達成感と満足感が得られるよう、豊かな育ちを支える支援や療育に取り組む。 人との交流体験から、絆や社会との繋がりを感じる中で、誰かの役に立ちたい、誰かに必要とされているという「自己有用感」を育む。 ありのままの自分を認める自尊感情から「自己肯定感」を高めることで、物事を肯定的に捉え、小さな成功体験を重ねる機会を日常生活の中で増やしながらい興味の幅を広げる。 できることが増えたり、何かを達成できたことで、自分の能力を信じる感情が芽生え、自信に繋がる「自己効力感」を高める。 自分の思いを伝えることや、相手の気持ちを考える活動を通し、集団の中でのルールについて学ぶ。 						
営業時間		10 時	00 分から	18 時	00 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	○日常生活をおくる上で全体を見直し、順序立て、準備・行動することで、さまざまな日常生活動作がスムーズに出来るようになることを目標としている。例えば施設内では毎日タイムスケジュールを立て、スケジュールの流れに沿って活動している。来所後すぐの手洗い、はじまりの会ではあいさつの徹底、「ありがとう」「ごめんね」が言える練習、ゴミをすてるという動作、自らトイレに行くという習慣、登園前には片付けや荷物をまとめたり、忘れ物がないか等の確認、そして帰りのあいさつという、日常の流れの中で、まずはきちんと行動や活動ができることを目指している。 活動支援例：主に生活向上プログラム、あいさつの練習、返事の練習、時間管理の向上、トイレ動作の向上、物の管理の向上など						
	運動・感覚	○走る、片足立ち、スキップ、ジャンプ、ボールを投げる等の基礎運動能力の向上を目標として、そのための足の動き方・位置・純真の変化・力加減等を調節することによって育つ運動企画能力向上をスモールステップとして設定し、空間における自分の身体の位置と手や足など各部位の関係についての的確な情報を習得し、身体を自由自在に使いこなす環境をうまく操作していくいくつかの身体感覚(感覚統合)と、目からの情報を基に身体を操作する運動(ビジョントレーニングなど)を取り入れたりしながら基礎運動能力を向上できる練習を運動を楽しみながら参加してもらおう。 活動支援例：主に運動機能向上プログラム、手先のトレーニング、身体を動かすことを楽しむ運動、手指の分離運動の向上、目と手の協調性の向上、バランス能力の向上など						
	認知・行動	○地域の学校や養護学校への進学を見直し、進学した際の学習や活動などに対して抵抗が少なくなることを目標としている。きちんと椅子に座れるか、話を聞くことが出来るかなどの基本的なことから「見る力」「聞く力」「書く力」「話す力」「読む力」「イメージする力」「注意を配る力」などの学習に必要な力を伸ばし、就学に入る前段階からきちんと練習を行っていく。また、就学後にはレベルを上げた読み・書き・計算など、社会生活に必要な能力トレーニングの支援を行うため、現段階でつまづいている場合は、個人に合わせた学習支援と1対1の個別での対応を心掛け行っている。 活動支援例：主に知的能力開発プログラム、知っている言葉の数の向上、ひらがなや数字を書く練習、集中する力の向上、話を聞く練習など						
	言語コミュニケーション	○個人の興味の幅を広げたり、特技をさらに深めたりしながら、感性を豊かにし、友達と共に楽しんだり喜んだりすることで共感出来る機会を作っている。主に制作活動などを通して、想像力を高めたり、発想力を豊かにすることができ、子供達の可能性を育み、のびのびと成長できる環境作りを目指している。絵を書くのが得意な子供たち、ダンスや歌が得意な子供たち、工作や手芸が得意な子供たち、お話が得意な子供たち、レゴや粘土が上手な子供たちなどがそれぞれの得意技を褒めあったり、また集団プログラムの中で一つの制作物を作り上げるこの感動も大切にしながら、認め合い、助け合い、励まし合いながら、喜びや楽しみやルールを共有できる環境を提供する。 活動支援例：主にアートレクリエーション、制作全般、ルールを理解する力の向上、ルールを守る力の向上、イメージする力の向上など						
	人間関係社会性	○ADHDや自閉症スペクトラム症の子供たちは、場面や状況を読むのが苦手だったり、判断せずに慌てて行動してしまう為、対人トラブルが多い傾向にある。また、どう行動して良いのか分からず、自分の気持ちを抑えてしまうこともよくある。これらは、本人の「わがまま」や「内気なため」ではなく、ソーシャルスキルの未熟さや、自己評価の低下が大きく関係している。ソーシャルスキルの中のコミュニケーションは、「話す」「聞く」「読む」「書く」などの言語コミュニケーションと、「表情」「声のトーン」「身振り・手振り」などの非言語コミュニケーションがあるが、トレーニングや体験を通し、理解する力や想像する力を育み、集団の中で生きるために必要な社会性を身に付けることを目指している。 活動支援例：主にソーシャルスキルプログラム、自分の気持ちをコントロールする力の向上、相手の気持ちを理解する力の向上、言葉で伝える力の向上など						
家族支援		○子供の成長に寄与する支援を、家族との連携を通して断続的に提供し、進捗状況を適切に把握しながら、柔軟な個別支援計画の見直しを行うとともに、子供の社会的・学業的な成長を見守る。			移行支援		○保護者や関係機関と密に連携し、定期的なスケジュールの見直しを通じて、子供の学習進捗や生活状況に適した支援を断続的に提供し、効果的な支援を実施する。	
地域支援・地域連携		○子供の個別ニーズに基づいた統一的な支援が提供されるよう、学校や他児童発達支援との効果的な情報共有と連携を促進し、的確に地域での支援が受けられるようサポートを行う。			職員の質の向上		○社員向けの研修及び、外部研修会への参加などから幅広い知識の習得を目指すとともに、職員間でさまざまな支援に対する考えや意見などが話しやすい、通しやすい環境作りも行っている。	
主な行事等		○他施設(老人デイ)と保護者参加の夏祭り。春の遠足などの季節を通したイベント。仮装パーティー含めたハロウィンやクリスマスパーティー。町の行事への参加など。						